

(様式第8号)

## 事業報告書（令和4年度）

事業名 精神的豊かさ（Well-being+志）と幸福度を高める人間関係の教育の実現

団体名 江崎英子 office いろは邑

担当者名 笹治英昭

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）	
日 時	2022年8月11日（木）13:00～16:00
場 所	岡山プラザホテル 鶴鳴の間
参加対象者	岡山市民（岡山市に在住・在勤・在学を含む）
人 数	83人
内 容	～精神的豊かさ（well-being）+志）と幸福の実感を高める人間関係という教育～ 池川明先生+江崎英子講演会 生まれてきた意味を知り、生きていく価値に目覚め、伝わる愛を育み、生きがいを紡ぐ。別紙チラシを参照のこと。
2. ESDの視点	
① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか	
家庭教育企業出前講座を導入し、親業講座を企業内、家庭内で学習し実践して、意識と行動の変容を拡大し発展しようと行動を起こした人々がいた。 教育立国推進協議会からの参加者もあり、素晴らしい感想、効果、成果を自らの実感をもって国会に届けた。 参加者から、「いじめや虐待や自殺がなくなり世界が平和になると確かに思え、この活動がもっと広まり、たくさんの人に届いて欲しい」等の願いと要望が多く寄せられた。 育みたい心と力は、持続可能な社会づくりに貢献したい心を実行する力であり、心の成長で培われていく力であり、心の成長は人間関係（親子関係、師弟関係等々）で健全に成長するものであるから、育みたい力は人間関係の在り方によるものでそれは日常において、知識を得よう、学びを深めよう意識し行動することの大切さと、自分と相手を大切に尊重し合い愛情と信頼が伝わるような心遣いの如何にかかっているという大切な根本が、参加者や周囲の人達に伝わった。	
② どのように学び合いを取り入れたか	
活動そのものが人間関係の学びと実践の場になっていくよう心掛け、伝えた。 自分事として事業に関わることでコミュニケーション能力が向上し精神的豊かさと幸福感が高まり実感できるように工夫した。 お互いの自己実現を支えつつ社会貢献が広まることで子どもたちへのお手本となる学び合いと実体験をしてもらえるように工夫した。	

生命科学、脳科学、心理学の研究実績に基づいた理論や哲学を基にした人間関係の根本と、日常に実践できて効果が体感できる具体的なコミュニケーションの実践法や体験学習を提供しつつ、講演会を開催した。

実践した成果や疑問点等を持ち寄ったものを基にしたフォローの会・語り合いの会・話し合いの会などを充実させ、身近に感じてもらえる存在になるよう工夫した。

実践の成果から自己肯定感の向上、自尊感情の高まり、分かち合いによる学びと実践の継続を感じてもらえるよう工夫した。

### ③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

長引くコロナ禍の影響を受けつつもウイズコロナ、新しい時代の到来も感じている人々がいる今、「持続可能な開発のための教育」活動であるならば、このような事態の時こそ救済や支援の手立てがうて貢献できる活動であることの真価が問われると意識して取り組みました。

ESDは「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」であるのだから、今こそ、希望が持て、新しい日常で、持続可能な社会づくりの担い手を育む教育として、「自分が生まれてきた意味を知り、自分として生きていく価値に目覚め」「愛情と信頼が伝わりあう人間関係によって自己肯定感が生まれ」「生きがいを紡ぎ」自己の精神的豊かさ(Well-being+志)と幸福度を高め、家庭、地域が安泰に繁栄していくコミュニケーション学習ができるようにしました。

ESD事業で育みたい心と力が養われる人間関係を伝え広めていく活動に、あらためて今一度、原点に立ち返り、学びと体感を広めていく実学に重点をおく活動にしました。

### 3. 取組の成果(事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。)

家庭教育企業出前講座、親業講座でも学びたいとする人々や企業があり、また、教育立国推進協議会からの参加者もあり、素晴らしい感想、効果、成果を国会に届けられた。

世界の中で、日本は国民の自己肯定感が低く幸福度の低い国であることが明らかになっている中、現在、持続可能な環境づくりを心掛けようとする意識の向上を人々に働きかける難しさがありつつも、また、持続可能な社会づくりには意識付けが肝心であり、人間関係が最も重要な影響を与えるとの認識が広まった。

愛情が伝わる人間関係のもとに育てられた人はその意識、精神が失われず、精神的豊かさと幸福感を感じられる健全な人間関係を広めていくことは、自尊心や自己肯定感が育まれて成長した人々によって世界平和を実現し地球環境の保全に直に影響を与えます。With コロナと After コロナを見据えた現在と未来に、心の支え、人と人が慈しみの心で思いやり助け合う人間関係こそが、そのような問題を解決できると今までの実績でも証明されてきたことをやり続けてきて、本年度は、それらが、より確証となった。

活動を継続することで、「誰一人取り残さない」で、愛が伝わる人間関係で全ての人を救う、全ての人を支えになりすべての人が精神的に豊かに自分らしく生きる幸せを実現する社会になっていけるとの確信を、参加者の方々、世論、行政の方々から与えられた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

今後の課題

精神的豊かさ（Well-being+志）と幸福度を高める人間関係の教育の実現

- ・人間関係について学ぶということの必要性を痛感している。また、求めている人たちに多く出会います。本活動を通じて、その機会も人数も年々増えてきています。この声に速やかに広く応えられるようにするための資金と人材を確保するかです。
- ・ESD活動を行っている人たち、ESDの普及活動をしている人たち、岡山市職員（ESD推進課等々）の参加が今回もなかったので参加していただくには、どのように工夫すればよいか、また、ESDプロジェクト参加団体の人たちも含め関心を持ってもらい積極的に多くの人たちに参加していただく事で、岡山市民へ影響を与え地域のESD活動の充実になり持続可能な社会づくりの発展・継続にいかにつなげられるかです。
- ・人間関係の学習が教育の一環としてスタンダードになっていくよう教育機関（学校関係、幼稚・保育園、塾等）、行政機関はもとより、企業にも早急に広めていくことや、岡山の人々から精神的豊かさ（Well-being+志）と幸福度の高まりを実感し、日本や世界に向けて平和と幸福と繁栄を持続可能にしていく社会づくりを実現するかです。

今後の展望

- ・人間関係が人格や人生の形成の基盤であり、社会の基盤でもあるという根本、人間関係が改善されると現代のあらゆる問題が解決することを多くの人に気付いてもらえるという手応えを覚えたので活発に展開していく。
- ・日本人らしいESDの活動を、岡山から世界へ向けて発信していく。
- ・誰一人も取り残さず、愛と幸せの実感ができ、生命を慈しみ人を大切に生きようと思える心になっていくようになることは実現可能だと本活動を通してつかみ得たので、日常に命を尊び生まれてきた意味を人々が自覚できるような家庭教育の推進にも取り組み、想いの力や言葉の力を伝え自尊心や自己肯定感が育まれていく人間関係が広まり、世界平和の実現と地球環境の保全への貢献が加速していく。
- ・日頃から愛と信頼の相互理解の人間関係を保っていくこと、想いや言葉には力があることを大人が体感し継承していくことがESDに繋がることであると、より具体的に伝わる形にしていくという視点で、ESD活動を行っているのは全国でもまれで、この事業が日本中に広まれば、愛と平和に満ちた健全な人間関係の普及ができ、持続可能な社会が創造されるという確かな展望ももち、コミュニケーション能力の欠如が起因して生きづらくなって起きる心の病・虐待・いじめ・引きこもり・自殺など深刻化される現代の日本の社会問題が解消できるよう今後も活動していく。加えて自分と他者を慈しみ、今を大切に生きる力は激動の時代を乗り越え生き抜く大きな力となった体感が広まり、新たなる時代を創っていく力となって岡山の地域から全国の持続可能な社会づくりに貢献できるようにする。